

「主体的・対話的で深い学び」を考える



教育随想

愛知県教育委員会

学習教育部長 小林 整次 氏

一年ほど前、ある進学校の校長先生から話を伺った。成績優秀な生徒が登校できなくなった。学校全体で授業改善を進めた結果、プレゼンテーションやパフォーマンス課題を披歴する場面が増えた。生徒にとってこの時間が大きな苦痛なのだという。真面目で内向的で、粘り強く思考を組み立てることが得意なこの生徒をどう受け止めればよいのか。以前から、アクティブラーニング型の授業に意欲的に取り組む教員の間では、内向型の生徒をいかに伸ばすかが課題となっていた。

この問題を考える上で、内向的な児童生徒への視点を確保したい。スーザン・ケインの『内向型人間のすごい力』（講談社）は、内向型の児童生徒が秘める力と可能性を例とともに示している。「多くの学校は外向型の子供に向けて作られ」内向型の子供からすれば学校という環境はひどく不自然なのだ」等の指摘も興味深い。我が国の教育の先人たちにも、授業の質を高める上で内向的な児童生徒の言葉を生かすことが重要だとする指摘もある。

近年、マネジメント論の分野で従来型リーダー像の見直しが進み、成員との対話や意思決定への参画を重視する「参加型支援型」のリーダーシップが注目されている。ジョセフ・バダラックが『静かなリーダーシップ』（翔泳社）で抽出したのは、忍耐強く慎重に行動し、犠牲を出さず、正しいと思われることを目立たず実践し、成果をあげるリーダー像である。内向型の児童生徒が、自らの特性を磨きながら成長し、社会に出て大いに活躍する道筋が確かにあるのだと思ひ知らされる。

「主体的・対話的で深い学び」が成立するためには、その過程のどこかで沈黙考「考える人」となる段階が必要ではないか。そのためには、自分や他者の思考と言葉に内向でき



（こばやし せいじ）



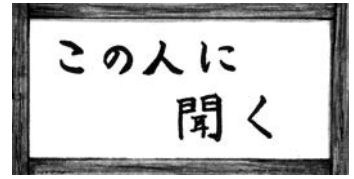
令和2年10月1日

10月号

発行・編集 岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想…………… 1
愛知県教育委員会
学習教育部長 小林 整次 氏
- この人に聞く…………… 2
FMおかざきパーソナリティー
大島 光子 氏
- 羅 針 盤 …………… 2
小豆坂小学校 校長 清水 範彦
- ふれあい…………… 3
福岡中学校 教諭 平川 愛
- 特 集…………… 4
岡崎版GIGAスクール構想
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー… 8
マルチメディア学習（平成9年）
- この本を…………… 8



自分の言葉の力を信じて

F M おかざき パーソナリティー

大島 光子氏

大学時代、「コミュニケーションが苦手な自分を変えたい」と放送研究部に入った。そこで「話すことを仕事にしたい」という夢をもつ。卒業後はアナウンサー学校に通いながら、イベントの司会等を行った。結婚を機に夫の郷里である岡崎市へ移住。一九九四年に「わかしやち国体」の競技アナウンサーを務めた。その後、FMおかざき開局時にパーソナリティーとなり、二十三年目を迎える。近年は岡崎市の歴史や史跡を案内するプロの観光ガイド「岡崎歴史かたり人」も務める。

「二十三年間パーソナリティーを務めてきて感じていることはありますかー言葉にどれだけ思いをのせて伝え

られるかということ。初めは、こう言えば自分をよく見てもらえるだろうと考えながら話していました。でも、話している言葉に自分らしさがないと感じたのです。「言葉は人なり心なり」と言います。今は、実際に自分が体験したり経験したりしたことを、自分の言葉で伝えようと努力しています。また、親しみを感ずてもらえるように、一対一の会話をしているつもりで話します。一方で、ラジオは多くの人が聞くものであり、私の言葉に対する感じ方や伝わり方も様々で、そこが怖い面であるとも考えています。だから、聞き手のことを考えて話すことが大切であると思います。普段の会話の中でも、相手はどう感じるかを考えて、声の表情を大切にしながら言葉を発するように心がけています。

「岡崎歴史かたり人」を始めたのはなぜですかー

「話して伝える」という活動で、もっと何かできないかと思っていました。市が「岡崎歴史かたり人」の募集をしていると知って申し込みました。岡崎の魅力を、ラジオだけでなく、直接会って伝えたいと思ったのです。ラジオはパブリックなものです。聞いている人の顔は見えず、反応も分かりません。でも、観光客の人たちと直接会って、一緒に観光地を周って語り合う中で、思いを共有

できました。歴史を感じさせる多くの寺社仏閣、お城や川沿いの風景など、私が感じる岡崎のよさに共感して喜んでもらえたのです。逆に私が、岡崎についてお客さんから教えてもらうことも多くあります。言葉を交わし合うことで一緒に学ぶことができる、とても大切な機会だと思っています。

「岡崎の子供たちに向けて、メッセージをお願いしますー」

言葉には力があります。喜びや楽しさなどのよい感情を、もっと言葉で表現してください。そのために、まずは自分を大切にしたいと思えます。そうすることで相手への思いやりが生まれ、言葉も、相手を大切に思ったものになります。一方的に話すばかりでは相手を知ることができません。コミュニケーションを通して相手から吸収したことが、自分を見つめ、知ることにつながります。その中から自分なりの価値観が生まれ、自分の表現が生まれると思います。



氏名 おおしま みつこ
生年月日 昭和三十八年
二月二十三日
住所 岡崎市寿町



みんなのために働くことの大切さ

小豆坂小学校

校長 清水 範彦

「子供たちがみんなのために働く機会があれば、率先してやらせてもらうといい。一時間の授業よりも子供が伸びる」と、若い頃、学年主任に言われた。学校行事の準備のため、授業中に学級の子供たちが長机を並べているときだった。授業を削られることになり、私が嫌々子供たちにやらせていたのが、学年主任に分かってしまったのだろう。

この言葉を聞いてから、私は、進んで学校の仕事を引き受け、学級の子供たちが働く機会を取り入れるようにした。すると、なぜか学級経営がうまくいくようになった。

子供たちが働くときに大切なことは、教師が、事前に綿密な計画と準備を行い、的確な指示を出すことである。そして、一生懸命に取り組んでいる子供たちを褒めることであ

夢中の力



福岡中学校

教諭 平川 愛

「めんどくさい。なんで学校に行かなきゃいけないんですか。」

四月にAに言われた言葉である。Aは、学校に行く意味が見出せず、人と関わることも嫌がっていた。

分散登校のある日、私は、Aのことをもっと知りたいと思い、Aと話す機会を作ろうと家まで迎えに行った。学校まで、二人で並んで歩き、じっくり話をした。そのとき、いつもは批判的な言葉を口にすることが多いAが、ぽつりと言った。

「学校に行かなきゃいけないのは分かっているんですけどね……。」

私は、その言葉にはっとした。みんなと同じように学校に行きたいけれど、それができないことに対して、劣等感を抱いているAの心の葛藤に気付かされた。

Aが自信をもち、自分自身を好きになるきっかけをつくりたいと思っ

た。そのためには、Aが夢中になれる何か、そして、周りからも認められる何かが必要だと考え、今年度から本校に開設されたフリースクール担当の先生に相談した。すると、「Aの能力を生かす活動をしてみたらどうか」と提案を受けた。

そこで、パソコン操作が得意なAに、市長杯に向けて、部活動激励動画を作ること提案してみた。Aは、「それは、面白いかもですね。」

と、初めて前向きな反応を見せた。早速、その日からAの動画作成が始まった。Aは、一こま一こまにこだわりをもって作業に取り組んでいた。

新しい目標を見つけたものの、Aがフリースクールに登校することは、簡単ではなかった。そこで私は、「選手の背中を押すような動画を作ることができるのは、Aしかない」と言い続けた。

動画放送の前日。下校時刻になっても、動画は完成していなかった。ここまでにしよと言いかけた私に、Aは、「このままだともやもやする。最後までやりたい」と言った。私は、Aの言葉に驚き、喜びを感じた。日が沈む頃、最後まで考え抜いた動画が完成した。

翌日、動画を昼の放送で流した。そのときの教室の様子を録画し、A

に見せた。最初はしぶしぶ見始めたAだったが、教室で歓声上がる様子を見て、ほほが緩んだ。

「Aが夢中になって取り組んだことが、福中のみんなのためになっているんだよ。」

と話す、Aは、

「むっっちゃ頑張ったんですよ。」と照れ臭そうに笑った。その笑顔を見て、私の方がAに元気をもらっているのだと気付いた。

Aは今、学校行事のポスター作成を企画している。学校に足が向かない日はまだあるが、自分からアイデアを持ち出すことが多くなってきた。Aは、夢中になれるものを見つけて始めている。



る。みんなのために働く場があるにもかかわらず、子供たちが何をすればよいか分からずに遊んでしまうことがある。すると、子供たちを叱ることになる。それでは、子供たちを伸ばす機会を無駄にするだけでなく、やる気を削ぐ結果になってしまう。

本校の児童は、毎年先輩が学校のために働いている姿を見ている。そのため六年生になると、ボランティア活動を始める。それは登校後すぐに行う廊下や昇降口などの掃除や一年生の教室でランドセルから荷物を出す手伝いなどである。

四月当初、使命感にあふれ、やる気満々で取り組む子供たち。その意欲を維持させるためには、周りの働き掛けが大切である。一生懸命に働いている六年生に、廊下で会った職員は、必ず声を掛けるようにしている。認められた子供たちの意欲は高まり、活動も長続きする。そのため小学校生活の大切な思い出の一つとして、ボランティア活動をあげる子供も多い。

「褒めて育てる」とよく言われる。そのためには褒めることができる場を意図的に作ることである。そして、子供たちが褒められる動きができるための教師の準備が必要である。子供は、みんなのために働くことで、自己有用感を高めていくのだ。

岡崎版GIGAスクール構想

～ICTを活用した学び方と働き方改革への取り組み～



▲タブレット端末(iPad)を使って学習する子供(梅園小)

令和二年一月、岡崎市では「岡崎版GIGAスクール構想」を公表した。「岡崎版GIGAスクール構想」は、「ICT環境の整備」「学び方改革」「働き方改革」を三本柱としてSociety5.0時代をたくましく生き抜く資質・能力の育成を目標としている。これは令和元年十二月、文部科学省が打ち出した小中学校の児童生徒全員に一人一台のパソコン、またはタブレット端末を配備し、校内高速通信ネットワークを整える「GIGAスクール構想」を内容、方法ともに充実・発展させたものである。岡崎市の先進的な取り組みは、全国的にも注目され、今後、学びの場がどのように変わるのか、大いに期待されている。

1 ICT環境の整備

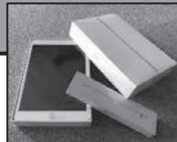
▼校内ネットワーク



各教室に、無線 LAN アクセスポイントが設置され、iPad 等が常時ネットワークにつながるようになった。

▼MYタブレット

- ・小学4年生以上の個人に貸与
(小学1～3年生は共用タブレット)



MYタブレットで実現する学びのイメージ

- ①教科書のデジタル教材の利用(QRコード)
- ②個別最適化学習ソフト、アプリでの学び合い
- ③協働学習ソフトでの学び合い
- ④動画や写真の活用、コンテンツの視聴
- ⑤画面転送、大型モニター掲示による学びの共有
- ⑥Microsoft アカウントによるOffice365の利用
- ⑦「岡崎市プログラミング学習」での追究活動

▼ICT支援員(ISA-OK)のサポート

iPad の使い方動画を作成したり、問い合わせフォームを開設したりして、GIGAスクールでの学びをサポートします。また、ISA-OKのホームページ上にも、タブレットに関する役立つ情報を掲載していく予定です。(ICT支援員の声)

Q 「岡崎版GIGAスクール構想」の目的は何ですか。

A 岡崎の子供たち一人一人が、最先端のICT環境を活用し、主体的・対話的で深い学びを通して、資質・能力を高め、未来社会で自己実現することを目指すためです。

Q 具体的にどのようなICT環境が整備されるのですか。

A 全小中学校の校内ネットワークの整備、全普通教室のWi-Fiの常設化、1人1台タブレット端末の配備、マイクロソフトアカウントの付与などが挙げられます。

Q 「学び方改革」のポイントは何ですか？

A 「MYタブレット」を活用した個別最適化学習の推進、学習者主体の授業への転換、チーム学習による考える授業の展開、「岡崎市プログラミング学習」の推進などです。

Q 「働き方改革」のポイントは何ですか？

A 配備されたiPadやネットワーク環境を活用することで、資料等のペーパーレス化、ファイル共有による業務の共同化、研修のオンライン化など、業務の効率化が推進されます。

2 学び方改革

～MYタブレットによる学びの広が～

羽根小学校の実践

『スクールタクトを活用した授業』

6年社会科「なぜ江戸幕府は264年も続いたのか？」
課題解決のため調べ学習を行い、スクールタクトの個々のページにまとめていく活動を行っています。



画面を2つ映し出し、インターネットで調べたことを参考にまとめています。



教科書を読んで、大切なポイントに線を引いてからまとめています。



NHK for school を視聴し、分かったことをノートにまとめています。



資料として、必要な写真を撮影し、まとめて使っています。

MYタブレットがあることにより、一人一人に合った方法で調べ学習に取り組むことができます。



共同閲覧モードで、友達の調べていることを確認することができます。



学級全体で、どの単語を多く使っているかを確認することができます。

甲山中学校の実践

『甲山中の一日 with タブレット』



①朝、1日のスタート
朝、登校すると、保管庫から各自タブレットを取り出し、1日が始まります。



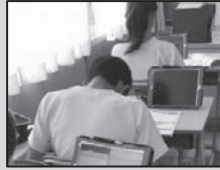
②朝の会・朝の学習
朝の会の準備をした後、タブレットドリルで、昨日の学習の復習を行います。



③授業で活用
数学の授業では、電卓機能を使い、関数の値の増減、変化の割合を詳しく調べています。



④教室移動
各家庭で用意したMYタブレットバッグにタブレットを入れて、教室を移動するときにも持っています。



⑤今日の学習の振り返り
教科係より示された課題について、デジタル教科書を活用しながら今日一日の学習について振り返ります。



⑥片付け・1日の終わり
保管庫の所定の場所にタブレットを戻します。最後に充電係が、タブレットを充電します。保管庫を閉め、1日が終わります。

3 働き方改革

▼ペーパーレス化

「Okazaki ▶ スマートワーク」

OKアクセス（職場外アクセス機能）を導入し、職場外でも安全に校務PCを利用できるようになった。

各学校に高速エコプリンタが設置された。印刷の作業にかかる時間が縮減された。



職員会議の資料をタブレットで閲覧できるようになった。印刷が不要となり、省力化が図られた。



▼eラーニング研修

電子会議室や Teams を活用し、オンライン上で話合えるようになった。集まる必要がなくなり、移動時間が縮減された。





●教育最新情報

○研究発表会・授業協議会

本年度は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、参加人数を限定するなど、これまでの研究発表会とは様子が大きく変わる。

代表者公開授業・授業協議会では、Teamsや電子会議室を活用し、実際に授業を参観できなくても研修を深める機会を設ける。



研究発表会

◆岡崎市立緑丘小学校

※市委嘱（H30～R2）

十月二十一日(水)

「主体的に学び続ける子供の育成」

―「まちガエル」「かんガエル」「ふりカエル」で「みちガエル」―

緑丘小学校では、粘り強さと自己調整力をもった主体的に学び続ける子供の育成を目指して研究を進めてきた。

活動の最初の段階で、学習

の評価規準を児童と教師が共有することを主な手立てとしている。子供たちは、「みちガエル」（目標）の姿を設定し、「まちガエル」「かんガエル」（試行錯誤）で取り組み、「ふりカエル」（まとめ、新たな目標の設定）となることによつて学習のPCDAサイクルを回していく。

紙上发表となり、当日は、初任研で子供たちが自らの頑

張りどころを明確にして努力を続ける姿を提案する。



◇「みちガエル」姿を目指す子供たち

◆岡崎市立細川小学校

十月二十八日(水)

「学びに向かう力を育む授業の創造」

～みんなで学ぶ・みんなが伸びる『チーム学習』を通して～

細川小学校では、「自他を認め、互いに協力し合つて問題解決を目指し、動き出す力」を児童に培うよう、意欲と協働の二つの方向から授業づくりの深化を進めてきた。教師

主導の一斉授業や一部の児童が中心となる授業からの脱却について、「チーム学習」を通して生き生きと学び合う児童の姿から提案したい。



◇「チーム学習」で学び合う姿

◆岡崎市立額田中学校

十一月十一日(水)

「学びに向かう力」を発揮する生徒の育成

～小集団の学習を核とした授業への転換～

額田中学校では、活動を生徒にゆだね、協働して課題を解決することを目指した「小

集団を核とした授業（CRS）、「目標は達成されたか、学び方はどうかであったかを客観的に認識する活動「セルフチェック」の二つを研究の柱として、授業実践を行っている。この授業では、各教科等の見方・考え方に沿った教師の出が重要である。

小集団の学習を核とし、適切な教師の出によって、生徒の「学びに向かう力」を引き出す。さらに、小集団の対話によつて深い学びができる授業を提案する。



◇小集団を核とした授業

●日本語初期指導教室
(プレクラス)だより

小学校日本語教室

一人一人に教育の光を

副室長 佐藤 孝子

お気に入りの猫のデザインTシャツを着てくる児童が、将来、獣医さんになりたいと微笑んだ。彼女は、プレクラスまでバスで通い、家に帰ると宿題を済ませ、夜間の仕事を始めた母の代わりに家事もこなす。目に涙を浮かべて弱音を吐くこともあるが、ここでは母語で悩みを受け止めてもらうことができる。

来日してわずか、予期せぬコロナ禍の中で、必死に新天地での生活を築いていこうとする親子らの姿に接し、日本の社会の縮図を垣間見るようでもあり、その重責を感じている。

昨年度開設された、日本語

初期指導教室「希望」の中学生クラスに続き、今春、四年生以上の小学生クラスが開設。それに伴ってスタッフも増員された。今年度、新型コロナの影響を受けた児童生徒不在の期間に、四か国語対応の自作テキストを作成することができた。六月に入り、ようやくブラジル、中国、フィリピンの三か国の児童生徒が入級し、三か月余りの学びをスタートさせた。九月現在の延べ通学生数は、在籍校である中学校六校から十二名、小学校四校から六名である。

いち早く卒級したA男は、入級時なかなか自分から話しかけられなかったが、めざましい日本語の成長に自信ももち、明るくコミュニケーションを取れるようになった。

外国人児童生徒を支援する新制度はまだ始まったばかり。スタッフ一同、限られた

期間内に、何をどんな方法で教えようかと試行錯誤の毎日である。「分かった」と、目が輝く瞬間は、私たちと子供たちの心が、ほわっと温かく通い合うときである。



◇パワーポイントを使った授業



◇カードを使った会話の練習

●表彰

◆第75回国民体育大会少年の部選手選考競技会

○少年B女子一〇〇mH

優勝 翔南中 林 美希

○少年B女子一〇〇m

三位 城北中 片山 心菜

◆第27回愛知県中学校カヌー大会

○男女総合

優勝 新香山中学校

○女子総合

優勝 新香山中学校

○男子カナディアン一人乗り

(C-1)

優勝 新香山中 稲葉 悠人

二位 新香山中 釘宮 陽

三位 新香山中 前田 楓斗

○女子カヤック一人乗り

(W-K-1)

優勝 新香山中 小笠原瑠菜

二位 新香山中 柳田 彩実

三位 新香山中 井原 結衣

◆令和2年度愛知県健康推進

学校

優秀校

福岡小

教職員の相談窓口

【対象】全教職員 【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30
2	岡崎市こころのホットライン	0564-64-7830	平日 13:00～20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～17:00
4	あいこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休 9:00～16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間

・カ
ツ
ト

矢作北中
成田絢香

マルチメディア学習 (平成9年)

写真提供：藤川小学校

藤川小学校にパソコン室が設置されたのは、平成六年。写真は、それから三年後、パソコンを使って学習する子供たちの様子である。当時は、四人で一台のパソコンを操作した。

本校では、「メディアを使って追究する子」を主題に、平成八年から、マスメディア学習の研究が、どこよりも早く始まった。平成十年には、すでに、社会科でインターネットを使った調べ学習を取り入れ、その内容を、地図やグラフを取り込んでまとめるなどの実践がされている。各教科で、メディアを生かした学習が進み、自作ソフトの活用もなされるなど、研究が進められ、大きな成果を上げた。

現在、岡崎市では、岡崎版「GIGAスクーリング構想」により、校内ネットワークの整備、一人一台「MYタブレット」の配布など、個々のICT環境が急速に整備され、子供たちの学び方は、さらに大きく変化しようとしている。



問い掛けるのも答えるのも子供自身。タブレット端末を活用した学習者主体の授業への転換により、主体的・対話的で深い学びを目指す。

ICT環境の整備、学び方改革、教職員の働き方改革を柱にした「岡崎版GIGAスクール構想」は、着実に進んでいる。

どホ

朗らかな笑顔と優しい口調で「岡崎が大好きです」と語る大島氏。その言葉に優しい人柄が感じられ、こちらの心も温かくなる。

私たちは、子供たちに語りかける言葉を、どれだけ真剣に考えているだろうか。言葉に思いをのせ、話す大切さは、教師こそ自覚しなければならぬ。

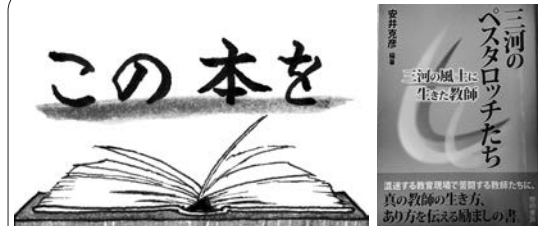
神無月



▲エイ エイ オー！
～昨年度の小学校球技大会より～

「ついつい「頑張り」と言ってしまうのが、教師の悪い癖だ。学校に来られない子供には、頑張れない状況があるのに。

教師が、子供の苦しみを理解し、寄り添っていく。そのとき子供は、その状況から抜け出すためのきっかけをつかめるのだろう。



***三河のペスタロッツチたち** 安井 克彦
黎明書房 ￥1,818

心に残った一文
人との出会いは偶然で、
それを生かすのは受け手の姿勢による

子供が本来もつ内面の豊かさを引き出し、伸ばすことを重視した教育家ペスタロッチ。本書にあるのは、三河の風土に根差し、ペスタロッチのごとく一途に教育と向き合い続けた22名の三河の教師の生きざまである。

かつて 30・40代の頃、「教師としてもっと伸びたい、学びたい」と、あがき苦しんだ時期が、自分にもあったことを懐かしく思い出した。

人が伸びたいと思うとき、しばらくは尊敬する人をひたすら信じて精進する無批判な時期をもつ方がいいと再認識させてくれた一冊である。

***サイエンス スイーツ** 太田さちか
インプレス ￥1,650

***グループ学習大全** 鈴木 正則
明治図書 ￥2,100

***ありのままがあるところ** 福森 伸
晶文社 ￥1,600

三島小 小田喜代美